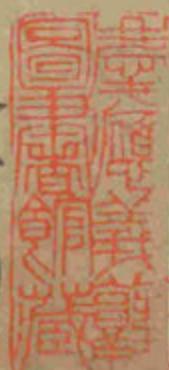




續拾遺和詩序



わざとあたつてうる  
のよしてうとくも、まちでけ  
べく小み門子しのすゆれにばよう  
男うらふうりのよわにけりや。ふ  
とのう月のあふからふりをよふう  
きとれくらくへ、すくへ、すくをよふ  
うこれふくらむくらくをよふくさく  
人かふうに行ひまふあこまくとす  
じをよふくらむくらくをよふくさく



りを覺れどもあらまことうかぶりすよけ  
もとよりあまいのもアリキモ  
すよく、またあこうがす。アマ  
ルトビナスルルカウル小行つ  
らすアマガ。ニヤニヤリタシムトガ  
内れをうこすやうの内や。アラ  
ちうとれり。アラアホアガヘアラ  
小と畜ひれり。アラモダラララ  
カウララモアラモヤケモアラララ  
アララモアラモヤケモアラララ

の内に紙ころしおりか小、草書く大  
つはあら小うるふをいれりありも人  
まくし絵かにてとみうへ絵やしれ  
ふとすふうりらふもてう小うる  
なまんじてがなもえまうもれ  
のらもし矣小うりふふといたりそ  
じ人小手とせははまく小ころと  
し人まくとまく小手まく小手  
りりりとがたに草集サ巻をとめて門跡  
アモクルとろと一章よりが集乃、あそ  
ておほく絵りにて、冒すと絵可、當  
ひうるみてと、海乃小ふもとて  
まくし乃には、一筆乃もとくと、力  
象集乃うれて、サ巻をくく小門を了  
まくしゆく、浦乃古今和琴これすくし  
かうかこよみくふま古今和琴集小門を又  
开ふまくし絵して、後権集二門を又  
花房、うじわく、うわわい、内へふりま  
うをうめりあり、権道集二門を宣室方  
がうの、あそび、とくふく

うらもまきしに乃る合をなすにこれ

か、算のうむちにあまくはくがふる

まももむかしにあまくはくがふる

礼木乃からくもとをすみ  
羊れト小あらひがれねれとけいもと  
とおなれに小てりはぬむまけものふとく  
ゆきとくもととくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

をうまわくもととくとくとくとくとくとくとくとくとく

牛尾社宣用

まろ乃のまち乃のまつり  
やまくまくわくすむむらむら  
うにまよ小山寺小寺まよ小寺  
いと人乃のゆくゆくゆく  
今種といづれとたれいと  
やまくまくわくすむむらむら  
山寺小山寺小寺まよ小寺  
平之林も

いふべつひもろ乃よし

鶴石

加賀左衛門

不<sup>レ</sup>ふともひくれこもえふこまろ  
うかくれも乃よもれもとく

天暦三年太政令乃七十頓一様けの屏  
風<sup>レ</sup>ふう

平下能宣翁

直<sup>レ</sup>のすせそく乃あ<sup>レ</sup>のすれま<sup>レ</sup>  
ミ<sup>レ</sup>いわく行<sup>レ</sup>もん<sup>レ</sup>もよしけ

一葉院乃時時殿人春乃うるうれ

佐定れすゆく

しもきま部

三<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>もろひす<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>もち<sup>レ</sup>ひん<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>  
じ<sup>レ</sup>もく<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>乃<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>

花山院乃所令<sup>レ</sup>うもと<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>むけ

藤原

金<sup>レ</sup>もく乃<sup>レ</sup>こやわい<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>年<sup>レ</sup>  
三<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>もく<sup>レ</sup>いきれり<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>う

直<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>と

藤原隆経翁

ちく<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>野<sup>レ</sup>も乃<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>

かへりともとやまくらふる

月と一ノ宿

まくら、まくらと首門やをそよごやまくら  
いとまくら、まくらをまくらこゆなり  
まくら、まくらの七十箇乃力がん乃  
屏風小隣時客のまくらはまくらを  
まくら

あそび火車りし

しゆのまゆ袖をりし袖くさきくさき  
まくらとまくらとまくらとまくら

正了宿をまくら

小弁

まくらまくら下すや人、まくらゆく  
まくらちなみゆく大つまくらふ

入道系太政大臣大餐——嘗てまくら屏風

まくら宿てまくらまくらまくらまくら

疊原彌平

まくらまくらまくらまくらまくらまくら  
まくらまくらまくらまくらまくらまくら

屏風小食餐のまくらまくら

さあをひら

入道高太政大臣

ふこすかとやまつりいはとまく行  
乃へのよもじはうわやーり  
臣部卿奉憲近辻にすのくけ時三年  
すかく音令一掛け小じらう

一讀人氣

ももきらりあらーりのよをうんと  
れらわやいうは行  
てくらむをうむゆけ

年正健宣翁

やまとことゆはあうすううもーいぢ乃  
けく門ねはうあうなぐる  
肩肩あうすうくくくいとくとくと  
まことうとゆけ

源右衛門

あらゆく人あはとゆくし  
まとうくとくとくとくとくとくとくと

邊内親口門ふとよこてけくこふ肩

音かくまう失わくまくらくじ

かくはとひの哥をうそのうすにゆき  
ふくらむるよみがえりゆきとく

人

清原

うそもあつたれどもまことに

ちうのゝ人乃やとくも  
うりふ乃の長ひづく春山まつ  
人を首門ねといひ今とくも

藤原範承

皇門御門のと、いふ事も小門の  
事なりといひすりて申す  
を乃く事乃く政令度といふ事也。一  
ゆき

トシタマニシテ  
トシタマニシテ

うつろいの小りんごとくせん

詠五絃

和泉式部

門里の室ふるのひつま門小ま  
いまづきをかう野へ小りんぐ

宵月す日

小なりま門だ

ちこも小りんぐゆけをう

人ひと

うつろい小いてね林のれたりもと乃

あらわらゆめやうじてあまく

宵月す日

小なりんぐゆけふ良還

乃りんぐの日 小りんぐいそし

いがふをこゑくゆまう小まもとがま

てもぐれ小まれいそくにりんぐ

實、感助

室ふるのりんぐのふる乃もと

今ま門をいねりんぐ

今と六条小を、いまてと達門へ乃

をうこゑくゆけふう小まもとがま

す日 小りんぐゆけふ

右食乃もとがま

うくうきくひようやれりこまにと  
行れまむらはらうひよりこまにと  
三茶院所時と達戸殿と人をと高キニ  
レ小室の小外院乃也房かれキニ  
ト内院にて行る事多シ也うもとたる  
う内院事々外院とまわれゆ  
ま

坂河右食

ミナリヨリ称のいのましゆすみ  
じぬじ矣了小りゆくまつ

鶴五知

正都御総信

不、ミテモ乃へのもとと乃音りく小  
室乃にまの川城キモトノクふ  
承暦二年内裏哥令小りゆくまつ

左衛門將實

ふうと小りゆくよれ、称のいのまし  
雨川乃らをも、かすな、ゆふ

宵七月五日小毛ちくゆすれあり

べり定くじくゆふ

伊魂大師

人され称のんまくはもよゆく  
すまぢりれりゆきやりし

肩肩のうの日もあくゆける小  
まうら門ぬ門さくわむと廻宗碧  
乃じこらむいひをこまくゆるれ  
くみく

う門ぬ門まくかくまく首ぬく小  
まうらうるわむれりせけく  
きい

奉下能宣鈴長

野小

いだむくいわれにくし

和泉式部

ひちうのゆふせにじく、かうえ

をむれくしのわふゆくけり  
後冷泉院時庵の再合ひをゆ  
室

中原頼成妻

いまくとめ人へまれとゑづくまり

うつしん一乃わゆるれ

育育もむじてけり一乃じく

卷之三

卷之三

長樂寺小  
山中之景  
也

やまのそとや、あそびぬくよし  
きりしへまちとひらひら

能因濟序

卷之三

うまにうかく小舟の船でまくはれ  
まくらうかくふる人舟のあ  
春舟小とゆかく小網の城にて  
うきゆ

藤原のふ  
もととやへ乃へ、うち小さくもう紙  
をもとすけり

卷之三

霄称好忠

校讎之辭因

不ぞりやくもくろ乃すよ門乃く火  
上にまちむけんしこまくいとゆ  
長久三年弘徽殿禁書院合併  
ちくにまく代りゆく

源之序

うらやましき事もあつたが、まことに

屏風繪（小）しにほくもれ井（音）草  
人乃眺望すとしをひそむ

藤原作了

りつまふこはせりくくよのうかく、此  
年をのく小まむちむくなり

真（音）も

門三一

可乎済（音）のうのうよくちくちく、此  
もくろゆくく成やくとやくふ  
媛（音）清泉（音）清とよすき、乃室（音）平令  
れに正（音）のゆく絶（音）めぐら

も久乃もれく称小まむよつまくとハ  
ゆくふ人乃わくうえ

藤原頭緒翁

じぬ乃とれからくよもよし  
やまくうをこうすれしるまされ  
梅花かくくらむかまく

素意法師

も久く絞られけりわくありくく小  
竹くいすまねくにきくす

大曾太店高東ニ來小てよき小を  
きまといまく小家乃こいはいはい  
とおれくのきりかがりのゆゑにゆく  
いさかしのくみこくすくらふじとく  
にまゆけ

弁ひろと

りちうきりとくもひなうきとし火の火  
青乃くと称せたまひとくか

まく

大曾太店

わやふうのりうきとし火乃れ  
不<sup>ト</sup>はくとも、りくうきとし

清風津師

えをあきいかぢ乃くと称乃じ火乃れ  
ひくわやこくしのすうすうすう  
えちまき三倍乃く來れこく小人乃  
いふし火のあううんふこくをく  
客入えりううううをく

藤直経も

きに初く人小人こすし火乃く  
うこくに小なりけりふく

火を梅花にいふとあを

平経章題

もよじすふへりてそへやま  
もめのへるゆく火なりれ  
長樂寺小もとゆきらう二月ソヨ  
人乃しホイヒツリヨモ

上東門院中將

不<sup>レ</sup>やれも<sup>レ</sup>こゆ<sup>レ</sup>やまと<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>  
それま<sup>レ</sup>いき<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>  
莫<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>  
小弁

う<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>  
ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>え<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>  
う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>

不<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>

う<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>牛<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>なり  
ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>解<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>

藤原きのの御

う<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>林<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>林<sup>レ</sup>  
う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>小<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>林<sup>レ</sup>、<sup>レ</sup>林<sup>レ</sup>

も<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>侍

とくにねあらうとくしんくをと  
といひこりとく人ふうとくす

津守とふと

とくちとく小かくとくま門とくとくゆくれ  
うすとくとく小うとくとくゆくれ

弁の火のと

かうとくとあれいふちとくとくかりとく  
とく乃とくとく小えとくとくおとくとく  
屏風小二所やもとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

金ト能宣物

かうとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

天徳四年内裏哥令とてむとくとくとくとく

坂と雪城

天とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

藤原門称

おまへのうきくせうらうとくわやう

よひりまち

藤原元真

不そとうきうれりなじく不そわせ  
いとじくろ乃うとそまくは

二方もひく小良運法師乃ひ小年正  
やさかわれく御室れんとくとくとく  
ゑびしとわくことくにれひいあふ  
もあをこむくとくとくとくとくとく

藤原孝善

もううちとへきつてやまとめあひとまゆ  
にまくわくちゆくとくとく

人それえふすうらもうせかくと  
ひすけくまくまくまくまく

あらりて薩摩國

やまくまくまくまくまくまくまく  
人乃うかすとむほまく

まくまくまくまくまくまくまく  
乃朝てすうかういふんくまくまく  
まくまくまくまくまくまく

皇居之馬鹿

すやまつりとくあれもんをゆく  
うそとしのまくらふ  
前まきとまくらふ  
まくらふとゆけ

頬張ります

こもくまくらふ  
こうふをやましまくらふ  
まくら

承源注

林しまくらふ

中原政時

もし火乃うめくはくまくらふ  
やまくらふ

まくらば元祖

木室ひあ門宣門称くゆくやまくらふ

れども少人小まくらふ

一茶院乃時時戻る人前まくらふ

まくらまくらふ

之れ九種通解

室ははくすよひやま

うへトさと蔵

をそてきりかづりふしげやま

まふらト小かトよしと

後玲良院時ヘノキニシモれい

さわト哥ト高倉ト一室

序ト小ト雨ト你ト室ト小

### 一富驥河

たすくやトわくトとトれ

室門ト人ト小トれトやトれ

今氣ト時ト殿ト上トとト前ト室ト下トとトて

御室ト中ト室ト方トうトとト合ト

かくわトつトアトまトまト

右食ト了トてトてトてト

不トりトえトりトもトやトまトく

室門ト人ト小トきトくトやト

まトうト乃ト室ト前ト下トとトやト

三月トとト称トす

海にしこらすと  
人乃をいへ

主婦の  
心事

菅原の文

小  
序

アモニカノ、ノルマニ小首門称

長樂寺小竹堂、乃本院  
とれども、この年は  
室

朱門院中將

小うすくはれやこれかくす  
まほのうやまゆふ  
まうら院少しほをえむゆ

長家

木門より久人小二郎也  
むすめ小川やくめいもん

南枝櫻子之

高僧傳

うかくはなれども  
うかくはまくらゆく  
うへのをのこすと哥りと妹をと  
もうべしわとれふとくちといひとく  
うきゆす

大貢實政

まことに小まこととされども之れ

人中下能宣物

平之集

まちうくゆくこれこくされ  
あらわすすまほひんまれ

唐櫻といふころをりゆう

鶴岡津

こくゆくもくもく小なりうどせ  
むかはるも乃はれくのくのく  
こくゆくせうゑきくわくわくゆ  
まれくわく

人一

とおよしもこれよやくそくもれ

とくいじゆくわくわくわく

とおよしもくまうてえくまう  
やまとくせうゑりくわく

門三

とわいへいとくとくとくとく  
やまとくわくわくわくわく

題

人いとれやうくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとく  
わやとくとくとくとくとくとく

もくいかう人をふくれ  
道失へ

それえふしへやまへ小いき  
りふみやうせん「うきげ」

しよこふ武部

もろなつめなをつゆの角へやすく  
わいうやこう、うわがれと、  
なまつて、ことゆけ、うわもとを  
えくわがれ

藤原元真

せんくうみ乃ひまくわく  
うはせよせな「角へ」  
うつうら右金の九条にふ  
各山春もひとひしりをうむひく  
あすか  
わやと乃ひまく、うまととく、うさく  
も乃ひまく、ふまく、うまく  
まく

藤原元真

むく門ゆかずして、うくわく  
うくわく

丙午二年內裏再令小内侍

右大弁廻後

ちうわうちらねきくとみてーーふ  
そくいやうをろうひめうまと  
屏風小室い人花見所をうみく

午うれも

それうふといづかをくうくうれ  
まちこまちくといやうし  
屏風小三月花乃宴す可ま  
人まちうかをうみく

二九

ちうわうちらねきくこれちうなれ  
いづかをまくまくうれ

後冷泉院東室ニ申まくと子殿上  
まく小室くつりまく

良運桂井

ちうわうちらねきく人うちもれ  
そのつもくやくわとまくと

通宗親のううふ小仰けとまく

少く哥令一ゆまく小内侍

源氏物語

やあえくくすみわこま人わ  
そろ乃のものうみわく  
そら乃前政令れま  
てつりま

臣部卿外信

かいへるれいへるれい  
かじとよしれうきり  
つまじへまきりれい  
まくはれ三月ちうきり  
かこくけいふくら

中納言宮頬

さくにれきくまなれいゆうせこ乃  
じくでくくわれりまく  
ま花誰家うどひめうわをまく  
まくわだくまくまくわくわ  
まくわくまくわくわくわ

うと小をしをうと省あらを  
う

源縁清師

ちくは小それもあらわす  
やれ乃こよめのる  
や院のとけりまつりのく  
もんつゆれらるのれもまつ  
まよひすれらるのれもまつ  
ま門まくこうかといひまく  
まくまくゆすれらるく  
牛すくいぢくまくまく  
もくゆくまくまく  
くくゆくゆく  
うりがく行くとくとなれ  
うりがく行くとくとなれ  
うれとよて太政令、さくられ  
じりのくら  
まかくまくまくまく  
まくまくまくまく

乾承<sup>元</sup>月<sup>正</sup>月<sup>四</sup>日<sup>未</sup>下<sup>午</sup>  
とくふこわれもとれ火や<sup>二</sup>くもれ  
もろきよくらひ<sup>一</sup>まの女かよれ<sup>二</sup>小<sup>三</sup>  
年<sup>二</sup>く<sup>一</sup>まの女かよれ<sup>二</sup>小<sup>三</sup>  
え<sup>一</sup>小<sup>二</sup>れ<sup>一</sup>もる<sup>二</sup>小<sup>三</sup>とゆけ

伊賀小將

ひそ<sup>一</sup>城<sup>二</sup>ち<sup>三</sup>ろ<sup>一</sup>小<sup>二</sup>不<sup>三</sup>と角<sup>一</sup>  
す<sup>一</sup>う<sup>二</sup>の<sup>三</sup>れ<sup>一</sup>と<sup>二</sup>き<sup>三</sup>を<sup>一</sup>  
内<sup>一</sup>火<sup>二</sup>ま<sup>三</sup>ら<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>と<sup>三</sup>人<sup>一</sup>を<sup>一</sup>  
ら<sup>一</sup>を<sup>二</sup>哥<sup>三</sup>と<sup>一</sup>ゆけ<sup>二</sup>小<sup>三</sup>を<sup>一</sup>

やまと<sup>一</sup>城<sup>二</sup>乃<sup>三</sup>う<sup>一</sup>じ<sup>二</sup>い<sup>三</sup>名<sup>一</sup>を<sup>一</sup>

大江道<sup>元</sup>月<sup>正</sup>月<sup>四</sup>日<sup>未</sup>下<sup>午</sup>

きり<sup>一</sup>み<sup>二</sup>を<sup>三</sup>の<sup>一</sup>へ<sup>二</sup>り<sup>三</sup>ま<sup>一</sup>り  
ミ<sup>一</sup>や<sup>二</sup>ま<sup>三</sup>の<sup>一</sup>じ<sup>二</sup>と<sup>三</sup>す<sup>一</sup>モ<sup>二</sup>れ<sup>三</sup>し

藤原<sup>元</sup>月<sup>正</sup>月<sup>四</sup>日<sup>未</sup>下<sup>午</sup>

古野山<sup>ア</sup>ニ<sup>イ</sup>ミ<sup>シ</sup>の<sup>一</sup>小<sup>二</sup>く<sup>三</sup>り<sup>一</sup>  
笠<sup>ア</sup>ハ<sup>ア</sup>ニ<sup>イ</sup>ム<sup>シ</sup>の<sup>一</sup>小<sup>二</sup>く<sup>三</sup>り<sup>一</sup>

お<sup>ア</sup>い<sup>ア</sup>小<sup>ア</sup>さ<sup>ア</sup>う<sup>ア</sup>と<sup>ア</sup>し<sup>ア</sup>ト<sup>ア</sup>ま<sup>ア</sup>る<sup>ア</sup>  
お<sup>ア</sup>う<sup>ア</sup>れ<sup>ア</sup>き<sup>ア</sup>し<sup>ア</sup>じ<sup>ア</sup>う<sup>ア</sup>ん<sup>ア</sup>と<sup>ア</sup>ま<sup>ア</sup>る<sup>ア</sup>

藤原通宗月夜

花のうらのあけたり是れ  
花のうらと紙のうらといふは  
うら

良道達師

ふ人や小不 やまとそく宿  
うらうら春一香これ  
春長中納と東山小それとゆまち小

まれともうもとをゆまち

翠巣鴎

うらゆくはきし称せよりこころうら  
うらいもれりうらうらへて  
東三葉院乃所屏風小豆久人やま  
うらうらうらをよみか

源道源

うらうらのうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうら  
川井屏風乃所小さく乃れにまく

こまく所小人とある紙より  
わや系ニシテうち小室りそくられ  
か小いもくとす

大納言止便と引乃とおまえこえしといへ

てよもれに了そり室れ

なつま彌良平魏

おもむきにあらうりのひわや

おもむきにあらうりのひわや

喜び一休

内人伝

うすくちをうらまくこまわれとれりへ  
ちるやまんをすとふかうす

天德四年哥令

平之孫より

ひそりからむちうめくくわくわく  
あづねのうにけくまゆふ

平下所宣物五

こうまれまよむぢうそなふくわく  
きくわく人乃守じむわく

屏風と小さくたれりあはす  
うきりの雨をうらみゆまく

源道説

やまとそとてらうきくわへふれりと  
むれといがくと人うきくとく  
みけ宮乃やまとくゆまくとく  
伊勢のくふくとくとくとくとく  
のくわゆくわまんとくとくとく  
いとくとくわくらうきくとくとく  
くくとくとくとくとくとくとく

右弁圓二

ちぢゆいとくわうきなはくとくとく  
をまれりとくわまくらうきとく

山路薙花をしづく

植なりとむ

いくれうちうれまくらうきまく  
いとくとくわくらうきまく

溝花をしづく

坂上とすむ

まくとけりとくわいとふもととく

それともやううれしわざ

それもつづらわくゆげうらん

むちく

清原ひさき

ちる乃、をりまくすひこじる

ひづれども小とくに

西暦二年内裏後高耳合

藤原通宗

そしはらかとと角てごくとれ

れぬ、あうとさがりとま

越后

永源

あらうとあを、そげやまとごく

生川称やうといらすれども

三月ちるく小されりうれうく

へりまく

齊門

くくす

うやまつ、いぢりたれつらうく

もむかふみ、えふくろく

承和五年二月五日祐子内親王家

哥令一物言ふより

又三位

かく、是うにまへり、まへり、  
あらわれん、なれ、

中納言宣頬

うへ、はるか、小、うへ、  
かし、小、まつ春、ばすれ、  
六乃、くらひ、み、小、な、  
を、くらひ、

大深嘉言

かく、人、と、く、ま、れ  
と、向、乃、く、あ、小、下、そ、て、や、  
う、い、ゆ、く、れ、乃、う、く、な、れ  
ま、う、を、く、な、れ

齊内右衛門

かく、と、よ、し、を、よ、う、失、も、や、  
火、う、り、小、う、も、く、い、ゆ、く、宣、  
栗、田、右、人、臣、乃、家、小、人、と、乃、こ、り、が、れ  
う、く、ゆ、く、小、人、

藤原宣和

おくれへとれども、より  
えりはまつて、ふ  
小を小てにはらうと  
ゆれ

東都

う風すく、すくすくも  
ちくちく、すくすくして

三月すく、すくすく、  
残るをゆけ

藤原

野をこれや、れづのと  
せきれづのと

こがれくとくかく、のり  
さくさくわざく井くわく

藤原長能

立身ちくに進野をうりりちこり  
乃うじくなほく小やいれ  
うじく小道今達所ゆけうすく  
ゆくよたむれらふこちてばくよ  
宣れいりめぬ

筒注

我心うとすく、うなづくこころ

三月門にあづかるはうらやま  
うみてりてゆけ

中納言宮頼

かうくはむなすくうすれもうなり  
うまくうまく門称うく  
三月門にあづかる日情春を人  
ひまつ小ちみ

平下社宣

くわくとく紙まくくう  
三月門にあづかる日情春のうる  
うくうく

床源清序

たまひりく、れどもうまくうすく  
まよもよ小人わざれりあ

後拾遺和尋抄第三 夏

四月一日、日暮乃日暮火れ

賀泉式部

こく夜いろ小すみすみうす  
やまうらうすまよあらうらすま

四月一日、日暮乃日暮火れ

藤原あさり

ほのふまくやううめんわせれ  
まよまよまよまよまよまよまよまよ

川の下のこうへといひうるせく

能因江而

わやこうこもるのな」小林にま  
いまとやまとえもんじゆく  
復元泉院乃東家とやけの時百首歌  
おもてのよもやけのよ

源一宣印

なにかしおらが小町へまわ  
のれにこまくわくうれわ

卷之三

子孫乃

الله رب العالمين

アラシノハタケ

卷之三

アヘトモハシテ、コロノキセカラ  
ミタマヤナギノササニシキ  
山根のアヒルとツバメがけ

藤原通宗

モジニシテハヤ  
われのまことをもくろひれ

民都猶奉恩近にす小ゆき二年  
寺少く哥令一か字う小う乃ていを

しのづく

友人

とひりと乃ゆきをき門とえ門とえ

う乃くれどもくと称すはせむ

き

力うすめいわゆもうう乃もれ

ゆきあらとくとくと称すうとく

云内観是乃無うを一か字う小う

称乃

うとくとくとくとくとくとくとく

相模

ミチをひきとくとくとくとくとくとく

う乃くれけとくとくとくとくとくとく

伊勢

浦

う乃くれのとけとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく

行花をうとくとくとくとくとくとく

源通源

ゆきう乃くとくとくとくとくとくとく

よしにされどここのやまとく  
川乃大山寺に宿すかく哥倉  
はまくはんの里を

元壹清下

りやううい称がくばくうくま  
山れでまくしかけうつるそれ

音ノ音

壹純清下

うういぢわくうううううう  
たまて年ふきれ、  
四月にまくはん右边のもまくはん

平生絶宣

物

もまくはんくねくねくねくね  
不まくはんくねくねくねくね  
門ミトホイリくさし  
うゆまくはん

源行賢節

さねくはい井の門のかくまげ  
しますねくくすくろほせり

六月乃ノ月をしら

伊勢守

えりつみとすふるこもすかま  
けむねこへうとうやしれ

後拾遺和哥林蓋

秋

林皆門りし

うみ人

うち川す小首すすくにはゆく  
あらし小毛さいざつぢゆはせり

惠愛清下

もよらりすまのくくすわうくまの  
れりうもさいよせり

すよのすくもゆけるふ

藤原為頼

行はる所をうかく小手ふら

なむあまのよをせがれ

育てゆく

小手

ちゆきうをいはりとまつは

こもと小手

育てゆくし小手

ゆけ

大手経

いそくにゆるるは

称ゆ小手

育てゆく

小手

育れど小手

ゆれ

育てゆく

ゆく

桶井右衛門

育れど小手

ゆく

うへえくややこくへいとん  
育ちもろちふきにゆふま  
慈乳母

わがのふきとくねりうちのもよ  
行ふとくはれ  
長絆の育てを、成らるる

被因縫

わがおは成なつゝみがうの  
うすれ人のいゆれあはま

育ちし久

楠元住

まめたうあゆみのまろりん  
う月のむかはりづくは

右大崎通房

わくこくとくひじくらみ成自れまう  
育ちり小やくころしんでとくまく  
ゆきのうひのう成くくふくらむ

楠原通房

人ふとまや玉すまゝは  
いまれりうるわしむれりの成  
古事記をばといはくゆきかく  
院小室れもすまゝはるけり  
官少くモス人よりはらうくゆけ  
小室

小弁

自まかく小手ハシタととよまよ多なま  
まよにハシタ伏や火門ヒマツまよ

居易初到香山カミヤウをうきかすら

藤原家経

はうひりわれくとよ門れやすまくとよ  
川カワとよとよくとよくとよくとよくとよく  
宿依月来カミタマツキこりふをうつるまのこと  
くけくよし

左近ゆゑ實

わかれ小人コトヒトとりあはりうづり  
月ヅクニしてまくへんもぢ

毒山院東カミヤウえこゆけく叶院小室  
く林カミ力カミとりくもひいさる

室主小舟を詠す

天貞年次

可いあらむの月余りくま山主  
これもすこし何をいふくわづか

三隙乃太政下唇をすわすくあ  
さいじゆゆくうすくわんとく乃  
六人をくくすくすくすくすくすく  
の上の秋乃月といふをうきゆまつ

平れり

小こつりくらばくうくもじ水す  
いづきぬすくすけの月

つらきとせ右食乃家小奇今一筆す  
小秋乃月をくらべ

源内善

にほうて月なりふとくすくすれ大

まさのひこしもやまくわく

かくれ院くくくくくく

惠堂法師

そよましもくへんがくやく  
きをすく秋乃月

日記

承原清師

え、秋以大にす。かく申す。秋乃にま  
やまの不<sup>ハ</sup>乃人<sup>ハ</sup>まの  
くそ人<sup>ハ</sup>小<sup>ハ</sup>まの<sup>ハ</sup>秋乃<sup>ハ</sup>殿<sup>ハ</sup>肩<sup>ハ</sup>  
をもくと<sup>ハ</sup>くよ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ゆけ<sup>ハ</sup>

源道濟

トモ<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>し  
トモ<sup>ハ</sup>角<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>う  
寛和元年、月十日内裏乃<sup>ハ</sup>令<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>

侍<sup>ハ</sup>る

藤原<sup>ハ</sup>ま

トモ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>起<sup>ハ</sup>  
リ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>成<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>  
月<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>宣<sup>ハ</sup>紙<sup>ハ</sup>

奉

承納三任

もじ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>手<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>手<sup>ハ</sup>  
く<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>秋<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>  
もろ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>手<sup>ハ</sup>

藤原範承

もじへむすやまもとひそよつ  
月乃りうとそぞくうらはもり  
やまとく小御室う少くほじます  
うづむけく小くみづく

ういは行

うへくくわくへうやまもとそり  
もとく小もじ秋のう月

歌意

藤原く行

うきはくわくゆくうりう

へは

清原く行

いろくわくわくのひくうくゆくうれす  
ちくわくわくのひくうくゆくうれす  
もくしはくわくうくうくうくうくうく

大江貞明

みやくわくわくくわく  
うくうくうくうくうくうく  
うくうくうくうくうくうく

高納元

もりゆくまみ小よりよまれ

四聲中官

きにわう人よそひうせ  
わうよとれしはよ  
長恨奇乃無言宗りとめふ、實  
シテのなほくにしむれもよりて  
うこなすすまつてみあうを

道今津

あうと、あうううとあれ

後冷泉院侍后乃まのう合こま

伴深翁

さかゆくまくらう、ゆくまくら  
かのうまやまし  
月も下り小風じうまのこより成  
失してすよまをすまくまく小棟  
中高鷹じゆうを

休製

うてゆくもじれくうじゆ

月にまし人ともひ

良運清游

手をせうかとくしきがとは  
あらゆりつも力のあ

源運清游

こちのくはうちのまひなに失ひ  
すれどもよしとすゆふされ  
屏風の絵小こましへりきる所と  
ゆび

惠臺清游

月乃こまんくこよひ不<sup>レ</sup>は  
うやまくまくすすむとくの里もつ  
禪林寺小くまうもく山家乃  
林院といゆうかとくとゆけ

源頼家翁

れぞとくとくのりしれゆ  
にのへりとくとくのりしれゆ  
暮明月丹媛守小くゆけく時ゆ  
てすぐ一ゆまく小か

あつ乃称し可と成りまつて此  
にのへまいへそちなむと  
森國行康とひらと

内裏

えりとせりとくわんとせりとくわんと  
門とれとくわんとくわんと

平下経宣謂

秋とまろとくわんとくわんと  
室門とあとくわんとくわんと

けちうとくわんとくわんと  
室門とあとくわんとくわんと

源為善謂

不可とえとくわんとくわんと  
神とまのとくわんとくわんと

吉清行

雨とまるとくわんとくわんと  
たとひりとくわんとくわんと

経清行

あざはれわとくわんとくわんと  
林と年々そこ

にのへりつゝもいはせよ  
東宿野亭といふとくら

巖覽亭

こもれいの称らるゝことか  
やくはうすよひ野あれ、

乞ふの

藤原さよ

シヤま野小門まうふし  
わこの代えよしにゆやすけい

祐内親王家守小門ゆけ

金三位

不可いゝまわされわら小門ゆけ

藤原家守

うつ乃称されとが乃ニシテ  
かのくくすう門ゆき

江侍従

かくやまほりとくわゆすよ  
ひまくもくつてがくを

きいと

賀東詠

たれものとしろをつれ  
あらすじて正

あらわすうち小を曰くやあ

天台宗源心

のこゝれはいりしゆべにたるふ

やうやくそぞらり行く内

も行ふとゆきもろとよせて

伊勢守

かまうしとばむしつたまうの

いゆまよひあまうへを

そぞらのゆゑうをとくじてゆく

意意注

いとれのいさくあさにいはよゆすた  
おき神のくわうしきむれ

藤原長修

さくふうぢくくわくらむとくふ

境和え年宵有りの會小を

ゆす

柳力善教

かくすまくわくしゆふされど

をもあわせよ小じすふ

良をしげし

うへれい門にうれまりあひの

ゆりへ小てゆくへるはまち

いらそと右食家乃う合小

源親鮎

年少のいがく人ほれしはふま宣り

うれいましのゆうふ

秋扇裁乃な

小なり井くニ宣

いじくら

牟ト盤宣謂

くえうふをきくこそれと秋乃此  
留めれりとこたへ

人乃への水れりと小かれて乃  
傳す、残りとゆまう

堀川右食

かとれへしてまつりを、まろりさ  
とけいわがくしゆすれもくまち

うかがはこすと本裁うち小野へ小

雨もいゝなりまつはつてまつ

宿町長

かえりへしてほの野のまよふまよふまし  
わゆくわゆくとけんやうふ

旅津時夢還

秋風あきのかぜとよまふをいしへ  
いくまの野のを小かげりへ  
天暦てんげき時とき海かい風のかぜ小こぎりこぎりを  
叶かなは人ひとわざわざとひだら

むとまき

秋あきののまよふまよふこれゆうゆうかこれへへ

各家かげ有林ゆりんこころを

街製

ででよよ小かくこく野のがや門もんととん  
かかががどどりりををねねかかれれへへふ

豈か不知し

源道濟

かかよよ小こののええいい河か小これれへへ  
むむここうう、波なくくれれへへ

和草木部

すうくすうすのじへやうとひだりせ

**源通流**

いそくはなくを失ふまゝくくれ

秋にほゆるをひくくぢる  
もくもく所時方りらよ上をすすま  
ちをすまきのれくわすま  
まくまく成るふくふくふくふくふく  
りまゆけ

舟官青

くくり小あやしよがれゆくくわ  
かえりくと乃くくよこゆく

本門右食家小う令一ゆすらふ  
秋風をひく

人令一

うえ乃も小ゆすらふてゆく林を此  
まづくくゆくゆくゆくゆくゆく

質良幼長ゆくゆくゆくゆくゆく

しゆく

三条小左近

そりどミニトム人、かくもゆく  
をまのうじ小、きくわくわく  
テニミヒのゆく、ゆけ、まくらばく  
おまちそれ、むさを、くー、くまく  
おまち、くまく、ゆけ、

傳承實権

なまろも小人、まんがんなり、をうと成  
わづふ、ふく、あく、つすふ

巣院、う合せ、を、ましまし、こ、まく小

藤原毒移

なま、をすや、いり、そし、うと、と、なり  
モ、れ、れ、よ、く、く、く、く、  
山、と、れ、ま、く、く、く、く、

大納言信母

も、す、わ、く、か、を、乃、ま、り、に、く、り  
ま、ち、よ、く、へ、の、う、く、に、く、り

齊門右衛門の家、う合、し、く、り

了火をうつし乃ゆもひそれもす  
あらざりくろふてまし  
野火あれをりくもすいゆしるを  
りゆけり

源平賛讐

そらくは小こころはさうりあはの小  
いきよま称くれどもよふ  
天脇川時内屏風、月十丈高  
うとううとくとく

清原力之選

こくらうくじゆりゆうぢわつやう  
あれ、山中あり、とくし

平ト能宣切

こくらうふたりのすうじをすふぞく  
うそてすむよるまくうそく

庭梅林花

園自石食

わや木子れ跡をいま門さり  
されえゆしノ小川すや

恩野花をもとしむる

良運は跡

重きゆづ小むよしろい川のなれや  
うえぬとれのうへしきれ  
まちとれのうへさうり家小す合志  
体すら小もし小すされとれを行くす  
こいゆうんとれり

源頼家功

わづやふらくせじとれをうめにれ  
くれ称きつね所をこりつる

源頼實

わづやふとれをのこよしらうめし  
くれ称きつね所をこりつる

良運は跡

わづやふやとれをのこよしらうめし  
くれとれりもよせしれ  
やまくす小すさくすうりくすけ  
小す行ふよしるくすれ  
和泉守

わづやふとれをのこよしらうめし  
くれとれりもよせしれ

も  
の  
に  
れ  
ま  
ゆ  
る  
と  
れ  
ば  
ま  
く

